



# ロータス林のわくわく通信



18年6月24日発行

## 7月 文月

7月の国民の祝日は、第三月曜の「海の日」ですね。ハッピーマンデーが施行されるまでは、7月20日が「海の記念日」でした。

明治9年7月20日に、明治天皇が、皇室の御召船の灯台巡視船、明治船で、青森から横浜に向った時、海が荒れたにもかかわらず無事に着いた事から、記念日となったらしいです。祝日に制定されたのは、平成8年からで、「海の恩恵に感謝すると共に、海洋国日本本の繁栄を願う日」らしいです。

日本は、四方を海に囲まれています。海は、たくさん物を、私たちに届けてくれました。外国からの文化・豊富な魚や海藻・加工貿易国としても経済を発展させてくれました。また、海に囲まれている事によって、色々な病原菌による病気からも私たちを守ってくれています。

## 車の長持ちの秘訣！ ~10万km 乗るぞ!!~

私たち、林自動車のお客様に、タクシー会社さんがいらっしやいます。今では、自家用車が普及したため、1台のタクシーの年間走行距離は4万km~6万kmですが、今から20年ほど前には、80万kmの車を、まだ車検するって事がありました。

へ~って思いますよね。当社の個人のお客様では

① 昭和60年式	トヨタクラウン	193000km
① 平成2年式	ニッサンパオ	244000km
② 平成6年式	ホンダアクティー	355000km

と、このように、長~く、しかも大切にお車をお使いのお客様がいらっしやいます。すごいですよね。こんなに長く乗り続けていらっしやる理由を、パオにお乗りのKさんは「この車以上に欲しい車がないんです。だって、可愛いんですもの。」とおっしゃいます。

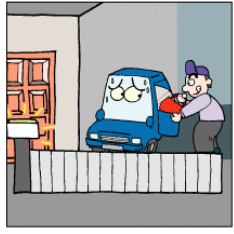
JAFのアンケートによると、1台の車に10万km乗り続けた事がある人は、約25%。

長持ちの秘訣は、何はともあれ、5000km毎でのオイル交換。そして快適なまま年をとっていきます。そしていよいよ、高年齢になった車との付き合いは、音を良く聞く。駐車場にオイルのしみや冷却水の漏れがないかをチェック。水温系などの計器を毎日チェックする。水を積んでおく。などの、涙ぐましい優しさと思いやりで満たしてお付き合いをされているようです。「よし、私も10万km乗るぞ~。」ってファイトの沸いてきた方、お困りの時には、適切なアドバイスのできる主治医となりますので、ご相談下さい。ホストクラブのようですが、整備士の指名もOKです。



## タイヤ バースト事件

この頃、身近で物騒な事件が多いです。車の業界において、近頃最も気になるのは、タイヤを鋭利な刃物で切り裂かれる被害が増えています。出かけようと車まできたら、1本、または4本とも空気が抜けてペッシャンコ。よく見てみると、通常走行では考えられない傷が...。犯人が、もしも身近な隣人だとしたら、怖いですね。こんな事件に遭われたら、被害は自分だけではないかもしれないので、とにかく警察に通報してください。その後、林自動車にご連絡下さい。すぐに馳せ参じて対処させていただきます。ちなみに、タイヤ単体の被害については、免責0円の車両保険に加入しているても、約款では保険支払の対象にはならないそうです。



**第一生命のサラリーマン川柳が発表されました。**

- ◆根回しが 済んだら方針 変わったた
- ◆大丈夫 君ならやれる 別の事
- ◆もう一杯 仕事に活かせ その粘り
- ◆成果主義 最終評価は 好き嫌い
- ◆上を出せ 「居ないと言え」と 言ってます

**英治のお奨め映画、ハッドボーイズ2ハッド。**

ウィル・スミス&マーティン・ローレンスのコンビが、漫才のような掛け合いをみせながら颯爽と登場の作品。ストーリーは、マイアミ警察の二人の刑事が、「エクスタシー」っていうドラッグを、裏取引するシンジケートを壊滅させようとするべくシンプルなもの。

見所は、ウィル・スミス演じるマイクが、大金持ちの御曹司という役どころで、ファッションがお洒落で華やか。乗ってる車もグレイのフェラーリ575Mマラネロ(日本での販売価格2750万円、税金諸費用抜き)、この車でカーチェイスをするんだからとんでもないっすよ。

マイアミの高速道路を4日間封鎖して撮影した、ド派手なカーチェイスと銃撃戦はほんと見物っす。車が飛んでくるんですよ。目の前に。それをフェラーリでバンバンよけながらの追跡って、ありえねーっちゃうの。潰した車は300台以上とあってド迫力です。大金にモノ言わせたハリウッド映画の底力はあなどれない。

金のかかった映画を観た後は、「すごかったよな。」「っというストレートな感動と爽快感が残ります。スカッとしたい時にはこれですー！一押し。



**「ありがとうチャンプ」**

~車椅子で15年生きた犬をあなたは知っていますか?~  
著者 三浦英司

もう、辛い~。この作品は実話です。作者が飼っていた、ピアテッドコリーのオス「チャンプ」が、交通事故で脊髄に損傷を負い、歩くことも、吠えることも、排泄することも自分でできなくなりました。警察学校の競技大会で、2度も優勝するほど優秀だったチャンプ。歩けないストレスから、脱毛症となり、生きる希望を失った目をしていました。三浦さんは、獣医に安楽死を勧められましたが、「チャンプをもう一度歩かせてやりたい。」と犬用の車椅子を自分で作り始めます。最初から、最後まで、一気に読んでしまっって、ティッシュを1箱使ってしまうくらい、号泣しました。読み終えた後の私の感想は、なんだか安堵感と見送ったという達成感がありました。三浦さんの愛情から、何か感じる事があるかもしれません。ぜひお勧めの一冊です。

